

Q 5 : 学級活動(2)に社会的スキルを身に付ける活動を取り入れる際に、どのようなことに留意すればよいか。

A : 学級活動(2)における、望ましい人間関係を築く態度の形成の指導のために、例えば、構成的グループエンカウンターやピアサポート等の社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れることが考えられる。その際、学級活動の指導の特質を踏まえた指導の展開となるようにするとともに、時間の配分に留意して適切な授業時数を充てるようにし、児童が現実の中の生活の中で自主的、実践的に望ましい人間関係を築こうとすることができるように配慮する必要がある。

学級活動(2)の内容(小学校共通事項「ウ 望ましい人間関係の形成」、中学校「オ 望ましい人間関係の確立」)の指導に当たっては、以下のことを考慮して、社会的スキルを身に付ける活動を効果的に取り入れること。

【学級活動(2)に社会的スキルの手法を取り入れる際の留意点】

例えば、構成的グループエンカウンターは、シェアリング(わかちあい)で終わることが多い。

しかし

学級活動(2)は、自己決定で終わる。自ら決めて自らの努力によって実践するという自己指導能力の育成を目指している。

そこで

学級の現状の問題について気付かせるための導入から、授業の最後には実際に人間関係を改善するための自分なりの手立てについて自己決定させるようにし、事後において日常生活の中でその決定に基づいて実際に努力する、という学級活動(2)の一連の指導過程の中(「展開」の部分)に効果的に取り入れることが考えられる。

右図【展開】参照

ただし

このような取組を行う場合、学級活動(2)や(3)の他の内容の指導も大切であり、また、学級活動(1)の指導の充実が一層求められていることも踏まえ、適切な授業時数を充てることが求められている。

社会的スキルを身に付ける活動を学級活動の指導過程に「効果的に取り入れる」であって、社会的スキルを身に付ける活動をそのまま「実施する」ことではないことに留意すること。

【社会的スキルの手法を取り入れる際の学級活動(2)の1単位時間の指導過程】

【導入】

学級内や自分自身にどのような人間関係形成上の課題があるかを理解する。

【展開】

人間関係を築くことの大切さや必要性を実感できるようにする。

ここに、社会的スキルを身に付ける活動などの新しい考え方や手法を効果的に取り入れることが考えられる。

【終末】

よりよい人間関係を築くために実際に、いつ、どこで、どのようなことに取り組むかを自己決定する。

参照 【Q4 学級活動の事前・本時・事後の一連の活動過程について】